

## 第6学年 国語科学習指導案

日 時 平成21年9月30日(水) 6校時

対 象 男11名 女12名 計23名

指導者 長山 政志

- 1 単元名 筆者の考えを受け止め、自分の考えを伝えよう(光村図書 下)  
主教材名 「平和のとりでを築く」(説明文)「自分の考えを発信しよう」  
補助教材名 「イースター島にはなぜ森林がないのか」(東京書籍 上)

### 2 単元について

#### (1) 児童について

児童は、説明的文章の学習として5年生では、文章構成や文末表現などに着目して要旨を把握したり、それに対する自分の考えをもったりする学習や、目的をもった読み取り方を学習してきた。今年度は、「生き物はつながりの中に」で文章全体を要約し、筆者の考えに対する自分の考えをまとめる学習を行った。

これまでの学習活動を通して、筆者の考えを把握したり要旨を的確に読み取ったりする力をつけてきているが、筆者の考えに即した読み取り方は、十分に身につけているとは言い難い。

今年度の国語の学習に関するアンケート調査では、あまり好意的ではない反応があった。しかし、一単元を終えた時点の児童の感想からは、「要約することがおもしろかった。」「自分で要約をしていって、どんどんわかってくと意外におもしろかった。」「まとめることはあまり好きではなかったけど、楽しく思えてきた。」というように説明文の学習に対する意欲の向上ととらえられる感想が出てきている。また、「自分の考えをもつことは大切だと思った。」「自分の考えをもつのは、おもしろいと思った。」「自分の考えを教え合うことができたのでよかった。」というように自分の考えをもつことへの意欲の高まりも感じられる。

このような実態から、筆者の考えに即して読み取っていくことをさらに確かな力として身につけていく必要がある。また、筆者の考えに対する自分の考えをまとめ、相手に伝えることで確かな読み取りの力と読むことから学ぶ楽しさが実感できると考える。

#### (2) 教材について

小学校学習指導要領国語科第5学年及び第6学年の「読むこと」における目標は、「目的に応じ、内容や要旨をとらえながら読む能力を身につけさせるとともに、読書を通して考えを広げたり深めたりしようとする態度を育てる。」である。

主教材「平和のとりでを築く」は、負の遺産がなぜ世界遺産になったのかを読み取り、未来を担う子ども達に「これからの社会のあり方は自分たち自身の問題である」という視点から「平和」について考えさせることで、教材の内容・価値を読むことができる。また、文章構成、叙述の特色等を読み取りながら要約することが、自分の考えをもってまとめる活動に生きてくる。

そして、これまでの学習活動が、「平和」や「生命尊重」といった広い視野から自分の考えをまとめることに活かすことができる教材である。

補助教材「イースター島にはなぜ森林がないのか」は、三つのまとめりそれぞれを要約し、筆者の考えをまとめることに適した教材である。また、筆者の考えに即して未来を見据え、自然環境を守ることがどれだけ大切であるかを感じさせることができると考える。筆者の考えについて読み取ったことから、「生命尊重」などの自分の考えをまとめることで、主教材での活動をさらに深めることができると考える。

以上のように、主教材では「平和」、補助教材では「生命尊重」と二つのテーマについての

考えを深める。これらの考えをもとに、自分のテーマに沿った事例を選択しながら自分たちにできることという視点で自分の考えをまとめ発信する。

(3) つけたい力と読みの方法 【つけたい力】 ○読みの方法

【筆者の考えを的確に押さえながら読み取る力】

○文章の内容を的確におさえ、要旨をとらえる。

- ・事例と考えの文 ・文末表現

主教材は、これまでの学習を活かし、文章構成をとらえて、それにあてはめながら読んでいく。主教材は、話題提示としての筆者の思い・歴史的事実と説明・筆者の意見という文章構成で、これまでの学習経験から容易に構成をとらえられると考える。全体の内容をとらえ、理解を深めながら、筆者の考えが強く表れている部分を読み取っていく。

補助教材は、筆者の考えが述べてある 27 段落を省略した教材を用意する。最初から筆者の考えに直接触れるのではなく、本文の事例をもとに、筆者の立場になって自分の考えをもつようにする。そのために、事例の中の原因と結果・考えを区別しながら、筆者の考えを読み取る。このような活動によって、さらに深く筆者の考えに迫ることができるようにする。

【自分の考えをもちながら読み取る力】

○事例に対して、自分の考えをもちながら読む。

- ・文末表現 ・感想や感想マークの記録

主教材では、事例に対して、「どの部分に関心をもったか」「考えさせられたこと」など、自分の考えをもちながら読むことを意識付ける。関心をもった事例についての考えをまとめ、記録しておくことによって最終的に考えをまとめることができるようにする。また、補助的な資料を用意することで事例への興味・関心を高めると共に、内容理解の手助けとする。

補助教材では、自分の考えをまとめる場面で 25～26 段落に着目し、これまでの筆者の事例や考えから、筆者がこれからの運命についてどのように考えているのかをまとめる。このことで、事例に対してさらに深い読みができるようにしていく。

3 単元の目標と評価規準

	単元の目標	評価規準
国語への 関心・意欲・態度	○ 説明的文章を読み取って、筆者が読者に考えて欲しいと願っている内容に関心をもつ。	・ 筆者の考えを受けて自分なりの考えをもち、「平和」や「生命尊重」について関心をもって読んだり、話し合ったりする。
書く能力	○ 事実と意見とを区別して書いたり、対立する意見を取り上げて反論を述べたりする。 〈書くこと ウ〉 ○ 自分の考えを明確に表現するために、効果的な文章の組み立てを考える。 〈書くこと イ〉	・ 事実と意見を区別して書いたり、対立する意見に反論を述べたりしている。 ・ 自分の考えを明確に表現するために、材料を選び直したり、効果的な文章の組み立てを考えたりしている。
読む能力	○ 説明的文章を読み、要約することができる。 〈読むこと ウ〉 ◎ 筆者の考えをまとめ、自分の考えをもつことができる。 〈読むこと オ〉	・ 筆者が読者に考えてほしいと願っていることをまとめている。 ・ 筆者の考えについての、自分の考えをまとめている。

4 単元の指導計画と具体的評価規準（17時間扱い）

段階	時	学習活動	国語への 関心・意欲・態度	書く能力	読む能力
見 通 す	1	教材文を読み、大まかな内容をつかむ。	教材文の内容から、初めて知ったことや興味をもったことをノートに書いている。 (ノート・発言)		
深 め る	2	段落を大きく三つに分け、小見出しをつける。			文章全体の構成を考えて小見出しをつけている。 (ノート)
	3	第2段落から第8段落を要約する。			原爆ドームのたどった歴史と、人々の思いを短い文でまとめている。(ノート)
	4	第9段落から第11段落を要約する。			原爆ドームが世界遺産となった理由を短い文でまとめている。(ノート)
	5	第12・13段落を要約する。			最終段落の意味を理解し、文章全体の構成を考えている。 (ノート・発言)
	6	文章全体を要約する。			筆者の考えに即して文章全体を要約している。 (ノート)
ま と め る	7	筆者の考えに対して、自分の考えをもって友達の考えと交流する。			筆者の考えに即して自分の考えをまとめている。 (ノート・発言)
広 め る	8	補助教材を読み、まとまりごとに要約する。			原因と結果、考えを区別しながら短い文でまとめている。 (ノート)
	9	文章全体を要約する。			筆者の考えに即して文章全体を要約している。 (ノート)

広 め る	10 本 時	筆者がどのように考えているか、自分の考えをもって友達の考えと交流する。			筆者がどのように考えているのか、自分の考えをまとめている。(ノート・発言)
	11	テーマについて、具体的な課題を決定する。	テーマに沿った興味のある話題から課題を書いている。 (ノート)		
	12 13	仮の要旨をまとめ、材料を集める。		自分の考えを組み立てるために多様な材料を集めている。 (ノート)	
	14	要旨をまとめる。		伝える相手を意識し、構成を考えて書いている。(ノート)	
	15 16	自分の考えを書きまとめる。		意見文としてまとめている。(作品)	
	17	考えを交流する。	友達の考えと比べながら、意見文を読んでいる。 (ノート)		

## 5 本時の指導

### (1) 目標

筆者の考えを推測して自分の考えとしてまとめ、ディスカッションすることができる。

### (2) 評価の観点と具体的評価規準

観点・具体的評価規準	A 十分満足できる	B おおむね満足できる	C 支援を要する児童への手立て
読む能力	<p>25・26 段落に着目し、子孫のくらしにも目を向けた視点から、自分の考えをまとめている。 (ノート)</p> <p>(例)            厳しい運命をたどらない、と考えていると思います。私たちの子孫のくらしを想像することによって、少しでも取り組みを考え未来を変えていくのではないかと考えていると思います。</p>	<p>25 段落に着目し、筆者が本文に挙げる原因と結果から、自分の考えをまとめている。 (ノート)</p> <p>(例)            厳しい運命をたどる、と考えていると思います。森林の伐採や、争いなどなくなることはないと思うので悲惨で厳しい運命をたどると考えていると思います。</p>	<p>筆者の挙げる原因と結果(段落 24)をもとに、自分の考えをもてるようにする。</p>

(3) 展開

段階	学 習 活 動 ○発問 ・期待する児童の反応	教師の関わり方 ・留意事項 ◎評価
見 通 す 10 分	1 前時の学習を想起する。 要約した内容を確認する。 2 本時の学習活動を確認する。 本時の課題を確認する。 鷲谷さんは、どのような運命をたどると考えているだろうか。 3 考える視点を確認する。 ○イースター島の歴史から教えられることは何ですか。 ・「ひとたび自然の利用方法を誤り、健全な生態系を傷つけてしまえば、同時に文化も人々の心もあれ果ててしまい。」のところで す。	・ノートや掲示物を活用する。 ・悲惨で厳しい運命について確認する。 ・読み手に考えて欲しい点が伝わるように音読するように促す。
深 め る 30 分	4 22～26 段落を音読する。(指名読み) 5 課題を解決する。 (1) 自分の立場を確認する。 ○どちらの立場で考えますか。 ・厳しい運命をたどる ・厳しい運命をたどらない (2) 根拠を明らかにする。 班毎に自分が考える根拠とその理由について意見を交流する。 それぞれの根拠についてどう考えるか伝える。 ○自分がそのように考えるわけを考えましょう。 (3) 自分の考えをまとめる。 ○自分の考えをまとめましょう。 (4) 自分の考えを発表しあう。 それぞれの考えをディスカッションする。 (5) 隠された最終段落を読み、筆者の考えに触れる。	・必要に応じてノートを振り返ることができるようにする。 ・筆者の挙げる原因と結果に目を向け、根拠をもった交流になるようにする。 ◎自分の考えをまとめている。(ノート) ・自分の考えとの類似点や相違点について明らかにしながら聞き、考えを発表できるようにする。 ・筆者の考えに触れ、自分の考えたことと比べられるようにする。
ま と め る 5 分	6 本時の学習を振り返り、学習のまとめをする。 7 次時の学習の見通しをもつ。	・本時がんばれた部分に視点をもつように促す。 ・今回の学習の成果について触れる。 ・次時は、意見文を書く学習活動に入ることを確認する。

(4) 板書計画

# イースター島にはなぜ森林がないのか

鷺谷さんは、どのような運命をたどると考えているだろうか。

イースター島の歴史から

自然の利用方法を誤る

←

悲惨で厳しい運命

厳しい運命をたどる

厳しい運命をたどらない